

3)だいこん品種の季節的特性の変化

中央農業試験場 園芸部 野菜花き第1科

1.試験のねらい

だいこん品種の特性について作期毎の変化を検討し、品種選定の資料とする。

2.試験の方法

1)供試品種：38品種

2)播種期

┌ 春播き : I (5月13日), II (5月24日) ┐
 │ 初夏播き : III (6月15日), IV (7月6日) │
 │ 夏播き : V (7月30日) │
 └ 晩夏播期 : VI (8月17日), VII (9月4日) ┘ (I~V期:裸地、VI~VII:シルバーポリマルチ)

3.試験の結果

1)抽台の早晚

春播き栽培(I~II)で抽台が早い品種群、抽台はするが実用には問題にならない品種群、本試験の範囲内では、抽台が認められなかった品種群に分類できた。葉色と抽台の早晚には関連が認められ、葉色の淡い品種群は抽台が早い傾向であった。

2)規格外根

初夏播き栽培(III)では急激な肥大のため裂根が発生しやすかった。裂根の程度、岐根および曲がり根の発生には品種間差が認められた。

3)内部障害

ス入り、空洞の発生は晩夏播き栽培(V~VI)で多発傾向にあった。赤心症状の程度は軽微であったが、夏~晩夏播き栽培(IV~V)で発生しやすく、網入りは初夏播き栽培(III)で発生しやすかった。

4)肉質・食味

季節的変動が大きく品種間差も認められた。夏播き栽培(IV~VI)では肉質が硬く、辛いだいこんとなり、春播き、晩夏播き栽培(I、II、VI)ではみずみずしく、甘味は晩夏栽培で特に高まった。また、初夏、夏播き栽培(IV~VI)では苦味を感じさせる品種があった。

5)その他

草姿、葉色、根型、青首程度などは品種固有のものであり、季節的な変化はほとんど認められなかった。また、夏播き栽培(V)で、カブモザイクウイルスが多発したが、病徴を示さなかった品種もあった。

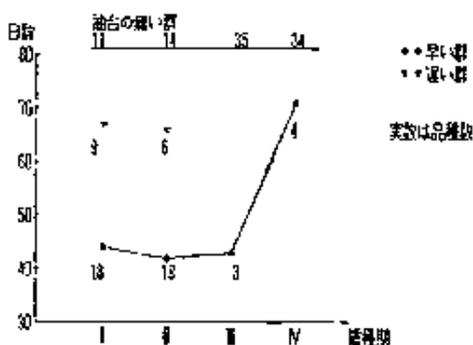


図1 播種期別抽台始め迄日数及び品種数

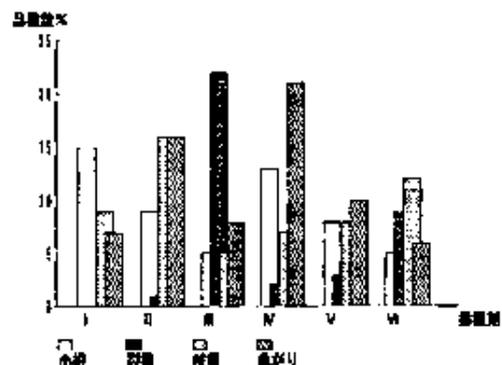


図2 播種期別規格外根の発生

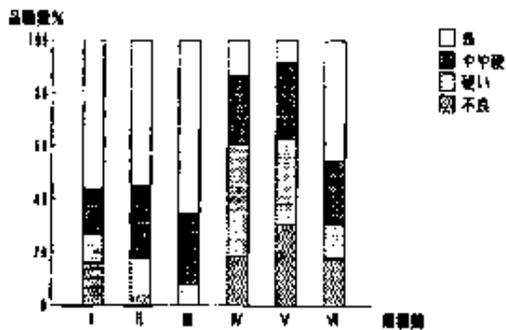


図3 播種期別肉質の変化

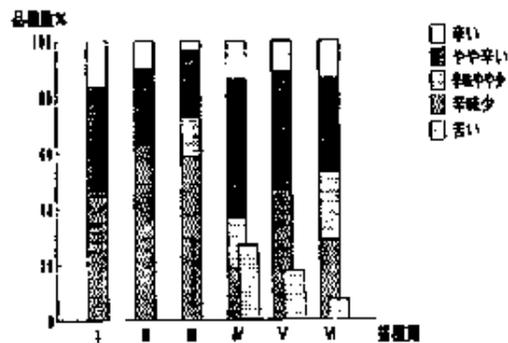


図4 播種期別食味の変化

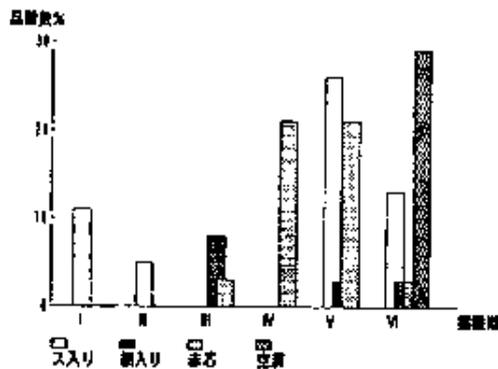


図5 播種期別内部障害の発生

表1 本試験で良好な特性を示した品種

春播き(I, II)	周作、献夏青首、T-340
初夏播き(III, IV) ↓ 夏播き(V)	快進2号、剣青総太 献夏青首、成徳、かつみ 庚、北栄2号
晩夏播き(VI)	快進2号、北栄2号、YR名人総太 涼太、福味2号、DA-02